

11/12(火)ダーウィンルーム読書会 配布資料(キュレーター:鶴田想人)

レヴィ＝ストロース『月の裏側 日本文化への視角』川田順造訳、中央公論新社、2014年
Claude Lévi-Strauss, *L'Autre face de la lune: Ecrits sur le Japon*, Le Seuil, 2011

中沢新一『100分de名著』第4回より:

「1977年、国際交流基金の招待によって、幼い頃の浮世絵への熱中以来、長年魅惑されつづけていた日本への訪問を実現しました。それをきっかけにしてレヴィ＝ストロースは、まるで堰を切ったように88年までに計5回も来日することになります。縄文文化や記紀神話から丸山眞男に至るまで、翻訳された文献を読み漁り、実際の日本社会や日本人と触れ合いながら、日本文化の本質について深く洞察していきました。そんな日本への強い興味と愛着は、『月の裏側——日本文化への視覚』(2014)に収められた数々の小文からも窺い知ることができます。」

クロード・レヴィ＝ストロース(Claude Lévi-Strauss, 1908–2009)略年譜(太字は来日):

1908年 ベルギー・ブリュッセルに生まれる
1926年頃 パリ大学で哲学・法学を専攻、社会主義者として活動
1931年頃 哲学教授資格(アグレガシオン)を取得、結婚し高校教師に
1935年 高校教師をやめてブラジル・サンパウロ大学に赴任(社会学講師)
以後、ボロロ族、ナンビクワラ族などの人類学的調査
1941年頃 フランスに帰国後、アメリカ・ニューヨークに亡命
1949年 『親族の基本構造』刊行
1955年 『悲しき熱帯』刊行
1959年 コレージュ・ド・フランス教授に就任
1962年 『今日のトーテミズム』『野生の思考』刊行
1964～1971年 「神話論理」四部作刊行
1977年 **10月**に初めての来日(→『構造・神話・労働』)。壱岐、九州、韓国を旅行
1978年 カナダのラジオで『神話と意味』を放送
1979年 2度目の来日。サントリー財団主催のシンポジウムに参加
1982年 3度目の来日
1986年 4月の経団連の招きで4度目の来日(→『レヴィ＝ストロース講義』)
1988年 5度目の来日
2009年 100歳で死去

(渡辺公三『闘うレヴィ＝ストロース』(平凡社新書、2009年)などを参照)

『月の裏側 日本文化への視覚』:

序文(川田順造)
世界における日本文化の位置
月の隠れた面
因幡の白兔
シナ海のヘロドトス
仙厓 世界を甘受する芸術
異様を手なずける
アメノウズメの淫らな踊り
知られざる東京
川田順造との対話

来日公演を収録した著作:

・『構造・神話・労働』・・・1977年

I 講演

民族学者の責任
構造主義再考
神話とは何か
労働の表象
著者を囲むシンポジウム(大橋保夫)

II 対談

未開と文明
一民族学者のみた日本

・『レヴィ=ストロース講義』・・・1986年

第1講 西洋文明至上主義の終焉——人類学の役割
第2講 現代の三つの問題——性・開発・神話的思考
第3講 文化の多様性の認識へ——日本から学ぶもの

次回のDRレヴィ=ストロース読書会のお知らせ:

12月18日(水)『火あぶりにされたサンタクロース』(中沢新一訳、2016年)
(旧版:『サンタクロースの秘密』(中沢新一訳、1995年))